県庁舎等再整備の概要

令和３年３月１９日
兵庫県新庁舎整備室

現在の兵庫県庁

防災拠点に求められる目標Is値0.9を大きく下回り、大地震に対する安全性基準であるIs値0.6も下回る。

阪神・淡路大震災を経験した本県だからこそ、南海トラフ地震等の災害対策として早期に県庁舎の耐震性能の確保が必要

県庁舎等再整備基本構想（令和元年６月策定）より

参考資料２

県有施設等の老朽化

県庁舎と同時期に建設された県民会館のあり方や生田庁舎の移転跡地の新たな活用方策なども検討が必要

(1) 兵庫県民会館
設備の老朽化、楽屋や練習室がないなど、多様な利用者ニーズに対応できていない。

(2) 生田庁舎
新長田南地区のまちのにぎわいを創出し、県・市連携による行政サービスを向上させることを目的とし、神戸県民センターを令和元年９月に新長田合同庁舎に移転

(3) 社会福祉研修所
平成31年2月に耐震改修後の福祉人材研修センター（旧産業会館）へ移転

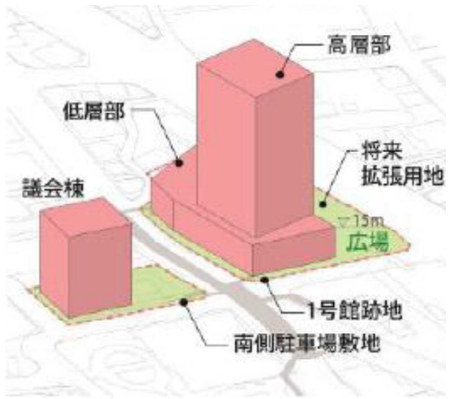
(4) 生田文化会館(神戸市施設)
併設する地域福祉センターの機能を除き、新たに三宮に整備される新中央区総合庁舎へ移転予定（2022年頃）

県庁舎等再整備基本構想（令和元年６月策定）より

敷地利用の考え方

□敷地利用の考え方

基本構想における新庁舎配置の考え方や、県議会の再整備協議会での議論を踏まえ、新庁舎を１号館敷地及び南駐車場敷地に計画



□評価

・分棟にすると低層部の高さを抑えることができ、街並みの連続性確保や圧迫感の軽減が可能
・議会部門について、シンボル性の確保や外部からの直接アクセスが可能
・供用開始が比較的早く、また、地元企業の参画機会が多くなり、地域経済の活性化に配慮

県庁舎等再整備基本計画　骨子案より

周辺地域整備の基本方向（１/２）

１　基本的な考え方

「山手グリーンフロント」の創出に向け、オープンイノベーションで新たな価値を創造するとともに、居心地が良く歩きたくなる「まちなか」を形成するなど、持続的なにぎわいづくりを目指す

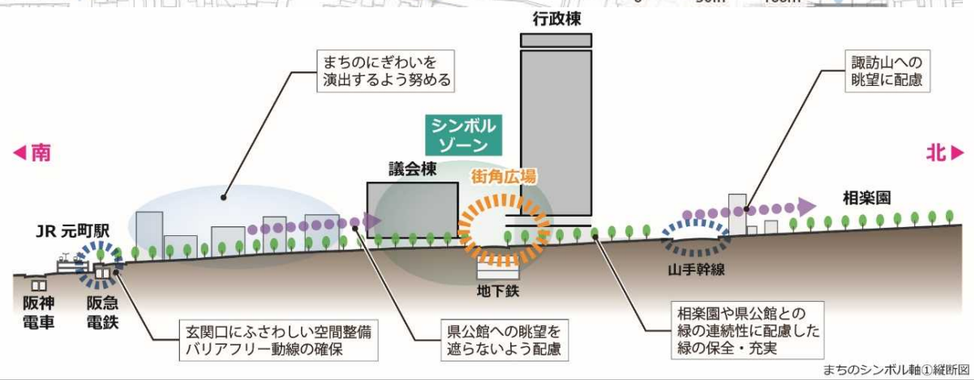
①２号館及び議場棟跡地と県民会館跡地に「にぎわい交流施設」を整備し、県民会館の持つ芸術文化機能の充実とにぎわい交流機能の付加により、多様な都市機能を集積

民間事業者や県関係団体等が連携した、にぎわいを持続させる仕組みづくりも検討

②歴史的・文化的で緑あふれ、多様な滞留空間を持った一体感ある「シンボルゾーン」を創出

歩いて楽しくなる「まちのシンボル軸」を整備

元町駅西口からのバリアフリー動線を確保



まちのシンボル軸①縦断図

２　にぎわい交流施設整備の基本方向

①２号館・議場棟跡地（敷地Ⅰ）と県民会館跡地（敷地Ⅱ）を活用

②県民会館の芸術文化機能とにぎわい創出に貢献する多様な都市機能の複合施設として整備

③民間事業者のノウハウとネットワークを活用し、効果的・効率的な施設整備を目指す

④新庁舎への移転・既存建物撤去後の整備になることから、引き続き、社会経済情勢をふまえた民間事業者の意向把握に努め、積極的な事業参画を促す条件づくりを検討

⑤生田庁舎跡地周辺についても、立地特性をふまえ、商業業務機能を基本に、居住機能の導入も視野に入れながら、にぎわい交流施設との連携が相乗効果を生む整備の方向性を検討

⑥将来的には、隣接する３号館、職員会館、公社館等の周辺施設についても、施設の建替等の時期にあわせて、にぎわい交流施設との機能連携を考慮

（参考）生田庁舎周辺施設の暫定利用

令和２年中に西神戸集合庁舎へ移転する生田庁舎と、令和４年に新中央区総合庁舎等へ移転する神戸市生田文化会館の施設については、県庁舎別館の仮移転先等として有効活用し、その後、にぎわい交流施設等として整備

■導入機能

「山手グリーンフロント」が目指す、「にぎわい創出」、「生きがいと自己実現」、「品格と創造」、「地域との調和」のキーワードに適合する機能の集積を目指す

社会経済情勢の変化や事業採算性、民間事業者の意向等に留意しながら、引き続き、敷地Ⅰ・Ⅱの持つポテンシャルを活かす具体的な導入機能や規模を検討

芸術文化機能	・県民会館のホール、ギャラリー、研修室など、県民の自己実現や生きがいに貢献できる施設を拡充整備 ・地域や県内外の人々が集い幅広い活動ができる場を整備 ・県民会館の芸術文化機能の継続性を考慮し、敷地Ⅰに、現在と同程度の規模（約17,000 ㎡）の導入を想定
宿泊・滞在機能	・国内外から兵庫・神戸を訪れるビジネス客・観光客をもてなす世界的ブランドのホテル ・従来のホテル業態に加え、ライフスタイルを重視したホテルなど、兵庫・神戸の特徴や「山手グリーンフロント」のコンセプトとの親和性に配慮した業態も想定 ・長期滞在型のレジデンス機能についても検討 ・敷地Ⅰに 15,000 ㎡から 25,000 ㎡（200 室程度）の規模の導入を想定
オフィス機能	・ＩＴや金融系等の先端企業からスタートアップまで、多様な企業・団体が利用するオフィスを想定 ・働き方改革やオープンイノベーション等の社会的ニーズに応え、にぎわい交流施設内外の連携に配慮し、シェアオフィスやコワーキングスペース等も想定
教育・研究機能	・県全体の発展に貢献する人材育成の拠点となる大学・専門学校等 ・複数の大学のサテライトキャンパスが入居するネットワーク拠点 ・若者のみならず社会人を含めたリカレント教育も想定 ・敷地Ⅱに導入を想定
商業機能	・新庁舎、３号館、にぎわい交流施設の他の機能の利用者や、周辺住民等の日常の生活をサポートし、利用者間の交流にも繋がる商業機能 ・兵庫・神戸の特徴や「山手グリーンフロント」のコンセプトとの親和性をふまえた、テーマ性のある物販・飲食等のサービスを提供することを想定
その他の機能	・「山手グリーンフロント」のコンセプトをふまえた上で、民間のニーズや環境変化に応じて柔軟に検討 例）医療モール、フィットネス施設、エステ・スパ施設等の健康・医療機能 Society5.0の発展やポストコロナ社会における生活様式の変化に伴うデータ通信量の増加に対応する都市型データセンター

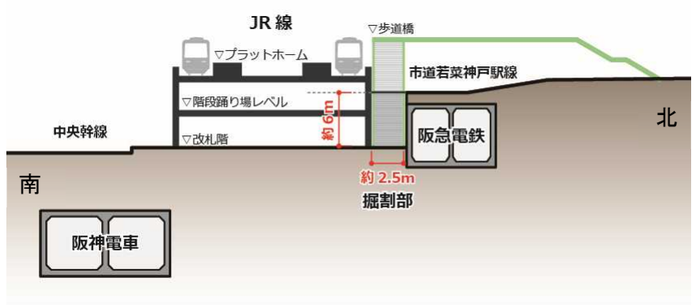
周辺地域整備の基本方向（２/２）

３　元町駅西口からのバリアフリー動線

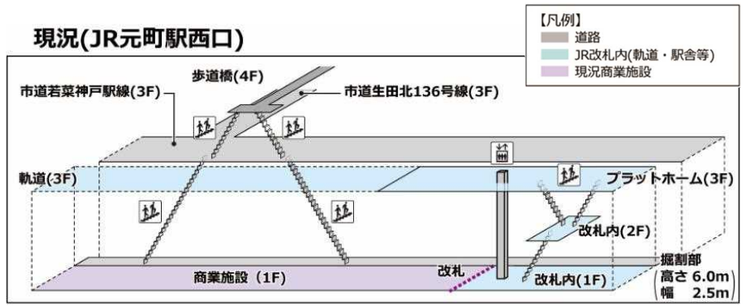
約６ｍの高低差のバリアフリー化と歩行者の利便性向上、商業施設等の整備によるにぎわいの創出により、「山手グリーンフロント」の玄関口にふさわしい空間整備と南北方向の歩行者回遊性の向上を目指す

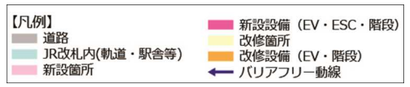
（前提条件）

- 市道若菜神戸駅線（元町駅北側）の地下に阪急電鉄、JR の敷地及び中央幹線（元町駅南側）の地下に阪神電車が走っており、地下道や基礎等の地下構造物の設置に制約あり
- JR 元町駅西口付近はプラットホーム幅が狭く、新たな階段やエレベーターの設置に制約あり
- 市道若菜神戸駅線と JR 高架との間の掘割部は、幅約 2.5m程度で、設置できるエレベーター（EV）、エスカレーター（ESC）の規模や形状に制約あり
- JR 西日本による高架下商業施設の再整備との一体的な検討が可能



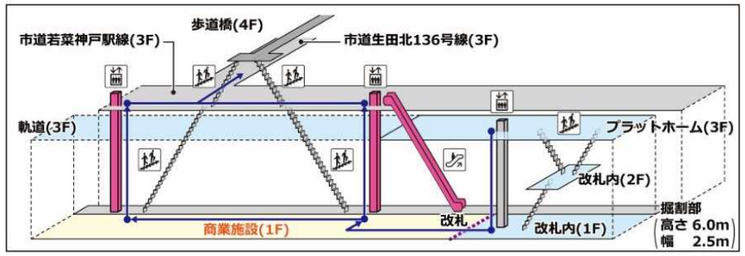
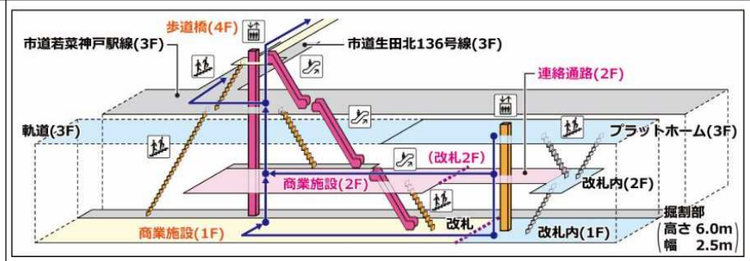
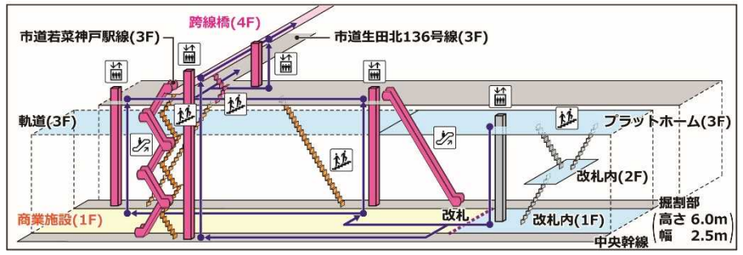
現況(JR元町駅西口)





①整備計画案

実現可能性のある以下の３案を比較検討した

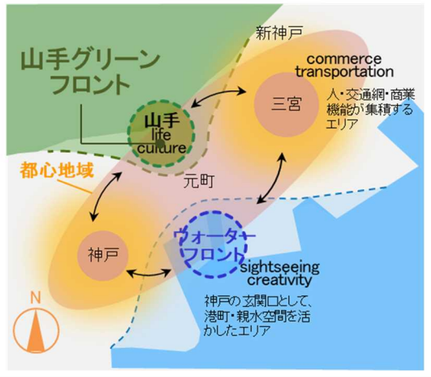
区分	Ａ案 最小限の改修によるバリアフリー化		Ｂ案 JR 高架下２階部分を経由するバリアフリー動線を整備		Ｃ案 鉄道上空に新たな歩行者用跨線橋を新設	
整備概要	 既設歩道橋や階段を活用し、JR 改札階と市道若菜神戸駅線を新設の EV 及び ESC で接続		 高架下２階に商業施設等を新設するとともに、北側歩道橋及び階段を更新し、北側歩道橋、市道若菜神戸駅線、２階新設商業施設、既存改札口の各階を EV 及び ESC で接続		 Ａ案と同様のバリアフリー化に加え、ＪＲを跨いで南北を結ぶ跨線橋を新設し、跨線橋と地上を EV 及び ESC で接続	
整備内容	北側歩道橋：既存	ESC：1 箇所 1 基 EV　：2 箇所 2 基	北側歩道橋：更新 ２階商業床：新設（２階改札:新設）	ESC：1 箇所 3 基 EV　：1 箇所 1 基	北側歩道橋：撤去 跨線橋：新設	ESC：2 箇所 6 基 EV　：4 箇所 4 基
歩行者動線のバリアフリー化	○	６ｍの高低差を EV で解消	◎	６ｍの高低差を EV で解消 ２階に改札口が新設されれば、３ｍ程度の高低差となる	○	６ｍの高低差を EV で解消
歩行者の利便性向上	○	ESC（昇り方向）の設置により利便性が向上	◎	ESC（昇り方向）の設置により利便性が向上 ２階に改札口が新設されれば駅からの移動距離が短縮 歩道橋の更新により、北側傾斜道路の勾配が一部緩和	○	ESC（昇り方向）の設置により利便性が向上 新設跨線橋による駅南北間の移動経路は分かりやすくなるが、高低差が大きいため移動時間は短縮されない
にぎわいの創出	△	商業施設への立ち寄りは部分的	○	１階及び新設２階の商業施設が動線上にあり立ち寄りが見込める	△	商業施設への立ち寄りは部分的 跨線橋利用者は商業施設への立ち寄りは無し

②今後の方向性

- 北側への円滑な歩行者動線の確保に加えて、ＪＲ線の高架下空間の効果的な活用等により、「山手グリーンフロント」の玄関口にふさわしい整備が可能となる**「Ｂ案」を基本**として計画を進める

※実現には、現地の詳細な測量や地質調査、既存構造物の調査等をもとに計画を進めていく必要があり、また、事業主体や費用負担、市道若菜神戸駅線の歩道拡幅の検討など整理すべき点も多くあることから、引き続き、ＪＲ西日本や神戸市と連携して検討を進める

＜神戸市の都心再整備との連携による活性化＞

現在、神戸の都心地域では、三宮における雲井通再開発事業や市役所２号館再整備、神戸阪急ビル東館建替、JR 三ノ宮駅ビル建替、ウォーターフロントにおける新港突堤西地区再整備等の大規模プロジェクトが進められている。

県と神戸市の連携により、これら都心の魅力を向上させる取組と適切に役割分担を行い、連携を深めることにより、都市の回遊性を強化し、ポストコロナ社会における都心地域全体の活性化につなげる。